

ること、また、学会は患者団体との協力により、解説資料の作成等を通じて患者や家族における診療ガイドラインの理解を助けることができるように努めるなど、有機的連携・協力の更なる強化につとめるものとする。

<上記を追記する根拠>

① がん看護専門看護師の養成については、日本看護協会認定部の実績資料をお願いします。

② 【日本がん看護学会】がすでにごん看護専門職者のキャリア開発事業

1. がん看護専門看護師のキャリア開発を組織的にサポート

アドバンスドセミナーおよび教育セミナーの継続的開催（平成10年より毎年）→ 認定更新単位につながる修了証の発行

がん看護専門看護師による学术交流グループ活動の組織的運営

最新のごん看護の知識と技の集積と、各地域へ発信

がん看護の質向上をめざした実践改革を提言

2. がん看護専門看護師をコアメンバーとした診療ガイドラインの開発と解説資料の作成

\* 腫瘍専門医会と連携し実践適用と修正をすすめている。

① 抗がん剤の血管外漏出の予防、早期発見、対処に関するガイドライン  
(資料2)

② 解説書：患者版ガイドライン (資料3)

外来化学療法セルフケアキッド (資料4)

4. がん医療に関する相談支援等及び情報提供 (p15) 3段落目、4段落目

がん対策情報センターにおいて、引き続き相談支援センターの相談員に対して研修を行うなど、相談支援を行う者を育成していく。

・・・相談支援を行う者を適切に配置することが望まれる。なお、その際には、既に相談に携わってきたがん領域に特化した専門性の高い看護師等の医療従事者や十分訓練を受けた相談員をもつ患者団体等との連携について検討する。